



イドの活動範囲は地域的に限定される状況となっており、拠点施設やジオガイドを介して、来訪者／観光客を他のジオサイトへ誘導していくシステムが構築されているとは言い難い。

広域連携でジオパークを推進するうえで、個別のジオサイトを物的にも人的にも充実させ、多様なジオストーリー展開を持たせていくことはもちろんのこと、ジオサイト間ストーリーを、ジオガイドを介して伝え、他のジオサイトへ来訪者／観光客を誘導することで、彼ら／彼女らのジオパークエリア内におけるフローが創出されることにより、山陰海岸の統一感が創出されるのではないだろうか。たとえば、日本海航空会社が運営した水上飛行機事業の場合、その舞台となるのは城崎温泉、円山川、湖山池であり、さらに隠岐ジオパークへと広がっている。このように、個別ジオサイトだけでなく、ジオサイト間をつなぐストーリーは多様に存在し、それをジオパークにおけるジオサイト間ストーリーとして再構築することで、来訪者／旅行者の地域理解が促進されるものと考えられる。

そこで重要となるのが、ジオガイドのネットワーク化であろう。各地に点在するジオガイドが互いに顔見知りとなり、お互いのジオサイトや拠点施設、ジオガイド自身を来訪者／来街者に紹介することができれば、山陰海岸の空間的広がりを彼ら／彼女らが認識し、将来的に多様な行動を生み出のではないだろうか。

実際、山陰海岸では、2010年より推進協議会が主催するジオガイド交流会が行われている。また、鳥取市では2011年より県内ガイド団体を対象とした鳥取県ジオガイド交流会をスタートさせ、その動きは拡大している。さらに、2011年3月11日の東北地方太平洋岸大地震と津波を受け、山陰海岸を中心に日本全国のジオパーク関係者がジオコミュニケーション推進グループを立ち上げ、国内でのネットワークを構築した。

そこで、本稿は世界ジオパークである山陰海岸におけるジオガイドのネットワークの構築やその広域化について、ジオガイドの特性や鳥取県ガイド交流会、ジオコミュニケーション推進グループの活動に

着目して明らかにすることを目的とする。以下、2では山陰海岸の地域概要について詳述し、3では、ジオガイド団体の分布やガイド養成状況、いわみガイドクラブの利用実績から山陰海岸におけるジオガイド特性を明らかにする。4では、鳥取県ジオガイド交流会を事例に、山陰海岸内でのガイドネットワークの構築について明らかにする。さらに、SNS（twitter）を活用して広域なネットワークを形成しているジオコミュニケーション推進グループの活動についても詳述し、山陰海岸内外のネットワーク構築とその広域化について検討する。

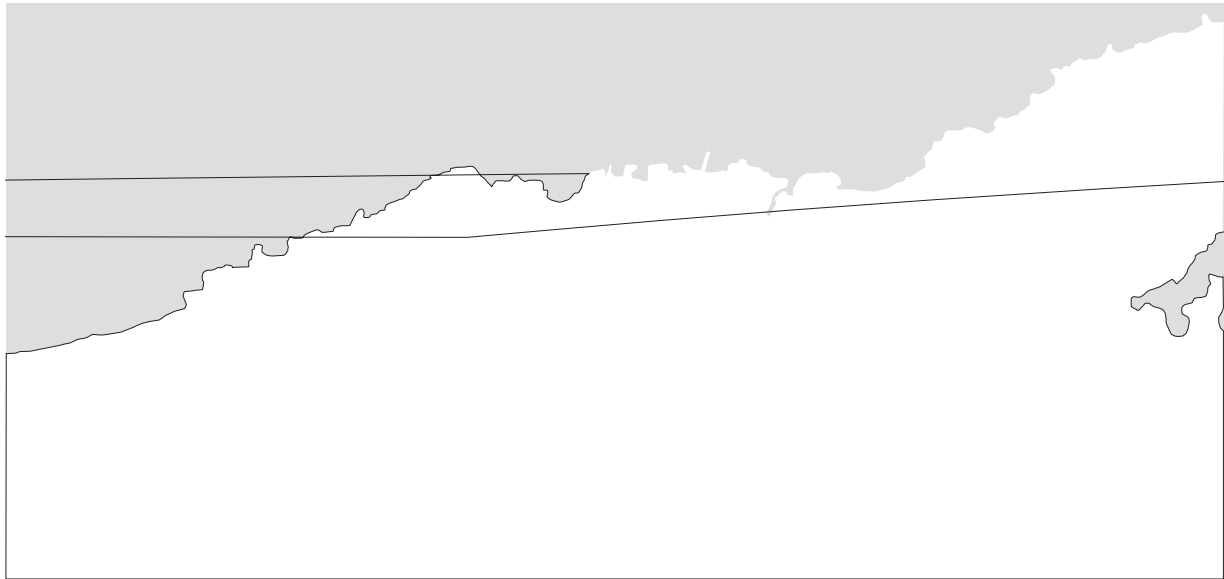
2．山陰海岸ジオパークの概要

2.1. 山陰海岸ジオパークの地域的概観

「日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人びとの暮らし」をテーマとする山陰海岸は東西110km、南北最大30kmあり、3府県6市町にまたがる世界ジオパークである（図1）。山陰海岸推進協議会が運営する公式ホームページでは、ジオサイト百選が公開されており、これらのジオサイトを中心として、教育活用やジオツーリズム振興が推進されている。

山陰海岸エリア内では、JR山陰本線が鳥取駅から豊岡駅まで通り、2011年4月から土日のみ快速列車「山陰海岸ジオライナー」の運行が始まった。豊岡駅から丹後大宮駅までは北近畿タンゴ鉄道宮津線が通っている。内陸では国道9、312、482号線が、海岸線では国道178号線が豊岡市を結節点としてジオパークの東西を結ぶ。さらに、2011年12月現在、建設が進む鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取 宮津、120km）では、2005年3月に香住道路（香住 佐津間）、2008年11月に東浜居組道路（東浜 居組間）、2010年12月に余部道路（余部 香住間）の供用が開始され、東西を結ぶ自動車交通の利便性向上に寄与している。なお、当該道路は三府県議会議員の会により「ジオパークロード」という愛称が付けられており、看板も建てられている。

山陰地方以外の地域から山陰海岸へのアクセスを見ると、鳥取市には鳥取空港が、豊岡市には但馬コ



ウノトリ空港が立地しており、鳥取空港では東京便が1日4便と国際チャーター機が、但馬コウノトリ空港では大阪(伊丹)便が1日2便、就航している。高速道路をみると、鳥取自動車道、播但連絡道、北近畿豊岡自動車道、京都縦貫道が整備されており、自家用車を使って関西方面から山陰海岸まで2、3時間程度の距離となっている。

山陰海岸の運営は各市町が中心となって行われている(新名2010、2011)。鳥取県では山陰海岸ジオパーク鳥取県連絡協議会を設立し、情報交換を行っている。新温泉町では2010年にジオパークネットワークを設立した。香美町ではジオパーク協議会とファンクラブが組織されている。統一してみられるサインは、のぼり旗、看板、ロゴマーク、パンフレット類である。

山陰海岸がホームページに掲載しているパンフレットによると、2011年12月時点でエリア内に拠点施設は7か所ある。博物館である鳥取県立博物館付属山陰海岸学習館(岩美町)、資料館である新温泉町ジオパーク館(新温泉町)、海の文化館(香美町)では、山陰海岸に関する広域的な情報を展示解説している。一方、玄武洞公園案内所(豊岡市)や鳥取砂丘ジオパークセンター(鳥取市)では、特定ジオサイトに特化したパネル展示やガイドが行われてい

る。道の駅てんきてんき丹後(京丹後市)では丹後半島の情報コーナーが設置され、岩美町立渚の交流館(岩美町)ではシーカヤックやシュノーケル、ジオガイド等の自然体験交流施設となっている。

上記の7施設以外にも、ジオパークに取り組む施設が各地に点在している。鳴き砂文化館(京丹後市)、北前館、竹野スノーケルセンター/ビジターセンター(以上豊岡市)、おもしろ昆虫化石館(新温泉町)、湖山池情報プラザ(以上、鳥取市)といった施設では特定のジオサイトやテーマに特化した展示が行われている。さらに、各地の道の駅や玄武洞ミュージアム、コウノトリの郷公園の土産物販売所では、ジオパークに関する土産物が販売されている。

2.2. 山陰海岸ジオパークにおける活用の進展

2010年10月に世界ジオパーク認定を受けた山陰海岸では、各地でジオパークの活用が進展した。2010年から2011年10月までの山陰海岸におけるイベント・ツアー等の件数と内訳をみると、2010年はイベントが78件中76件と最も多かったが、2011年に入ると、ジオツアーや講演会・シンポジウムが急増し、全体で182件と前年比2.5倍になった(図2)²。イベントの中には、ジオパークに特化したものもあるが、

2 本データは2011年10月時点で山陰海岸推進協議会ホームページに掲載されている260件のデータを基にしている。

や「砂丘の不思議発見隊」といったジオツアーが開催されたほか、2010年には砂像を展示した砂の美術館が、2011年にはゆるきゃらカップなどが開かれた。さらに、これまで課題として挙げられていた内陸部も神鍋高原をはじめとした国道9号線沿いの地域を中心に活用が進んできている。神鍋高原では火山地形を活かした溶岩流散策が行われ、冬季にはスノーシューウォーキングや周辺スキー場でのジオパークの活用がみられる。香美町小代区では、但馬牛を用いた食のイベントが開かれ、上山高原（新温泉町）では霧ヶ滝トレッキングや上山高原ハイキングが開催された。

来訪者や観光客に目を向けると、ジオパークが観光地として認識され、観光行動においても目的地となっていることが確認できる。鳥取市若者会議が2011年12月3日にとりぎんバードスタジアムでホーム、アウェイ両サポーターを対象に行ったアンケート調査では、ガイナレサポーターがアウェイサポーターに紹介したい観光地として鳥取砂丘（205人、8.3%）が最も多く選択され、次いで水木しげるロード（165人、54.3%）、山陰海岸（139人、46.3%）となっており、鳥取県内においても、ジオパーク自体が観光資源として認識されていることがうかがえる（表）。さらに、第4位に浦富海岸（105人、35.0%）

第6位に白兔海岸（93人、31.0%）、第10位に賀露港（61人、20.3%）と、上位10か所の内、山陰海岸関連地域が5か所選ばれていた。これらの地域は既存観光地であるため上位に位置していると考えられる。

一方、来場した愛媛FCサポーターをみると、ア

表1 ガイナーレサポーターがアウェイサポーターに勤める観光地上位10か所（2011年12月3日）

観光地	回答者数 (人)	割合(%) (n=300)
鳥取砂丘	205	68.3
水木しげるロード	163	54.3
山陰海岸ジオパーク	139	46.3
浦富海岸	118	39.3
大山	105	35.0
白兔海岸	93	31.0
とっとり花回廊	77	25.7
温泉	69	23.0
隠岐	64	21.3
賀露港	61	20.3

注 複数回答

(鳥取市若者会議アンケート調査により作成)

表2 愛媛FCサポーターの主な観光目的地（2011年12月3日）

	回答者数 (人)	回答率(%) (n=64)
鳥取砂丘	44	68.8
山陰海岸ジオパーク	14	21.9
温泉	6	9.4
水木しげるロード	6	9.4
白兔海岸	4	6.3
青山豪昌ふるさと館	4	6.3
道の駅かわはら	3	4.7
仁風閣	2	3.1
湖山池	2	3.1
そば道場	2	3.1
燕趙園	2	3.1
東郷湖	2	3.1
蒜山	2	3.1
河原城	1	1.6
賀露港	1	1.6
雨滝	1	1.6
出雲大社	1	1.6
境港	1	1.6
その他	5	7.8

注 試合観戦に伴い、観光を行うと答えた64件のデータに基づく。
(鳥取市若者会議アンケート調査により作成)

ンケート回答者113人中64人が「観光する」と回答した。その内、鳥取砂丘（44人、68.8%）が最も多く、次いで山陰海岸（14人、21.9%）、温泉・水木しげるロード（各6人、9.4%）となっており、ジオパーク自体が観光における目的地となっていた⁴（表2）。

3. 山陰海岸ジオパークにおけるジオガイド

ジオガイドを「ジオパーク案内」と広義に捉えた場合、その形態は人が行う場合と、拠点施設を訪れる場合、看板やガイドブック、ウェブサイトなどの文字情報を介する場合がある。ここでは人を介して行う場合に限定し、彼ら/彼女らを「ジオガイド」として捉え、以下、各種データからジオガイドについて明らかにする。

3.1. ジオガイド団体の分布とガイド養成

山陰海岸には少なくとも37団体のガイド組織が存在する（図4）⁵。有償ガイドは37団体中25団体（67.6%）あり、無償ガイドは11団体（29.7%）、未定が1団体（2.7%）となっており、有償のガイド団体が中心となっている（図5）。ガイド料金は団体毎に異なり、ガイド一人当たりにかかる料金設定を行っているものと、ガイド1回あたりに係る料金設定を行っているものがある。ガイド料金の平均は1回につき1,800円程度であった。1か月あたりの平均利用者数が判明した17団体をみると、玄武洞公園無料ガイドの3,858人⁶が最も多く、1団体あたりの平均案内人数は514人/月であった。

先述のイベント等の開催地と同様に、内陸部にもガイド団体は分布している。ジオガイド団体自体は、山陰海岸の西側に多く分布している。市町別内訳をみると、香美町と新温泉町に各10団体、鳥取市が7団体、豊岡市が5団体、京丹後市と岩美町が各2団体となっている。最も団体数の多い香美町の場合、

4 愛媛県西予市では四国西予ジオパーク構想を立ち上げ、ジオパークに取り組み始めた。

5 山陰海岸推進協議会主催のジオガイド交流会資料では37団体が紹介されているが、ジオパークのエリア内で実際、活動しているガイド団体すべてを網羅しているとは限らない。

6 期間は平成23年4月から9月までである。

表3 山陰海岸ジオパークにおけるガイド養成講座(2011年)

地域	講座名
京丹後市	日本海の拡大 堆積岩と環境
	断層と地殻変動
	火山岩と丹後半島
	山陰海岸ジオガイド
香美町 今子浦	ジオパーク総論
	救急法トレーニング
	スクールインタープリター養成入門講座
	今子浦の岩石・地層について
	今子浦の文化、歴史、産業について
	今子浦の四季の自然について
岩美町	今子浦ジオツアー (初級編)
	ジオパークとは・山陰海岸ジオパークについて
	浦富海岸の歴史・文化、浦富海岸の地形・地質
	日本海の生き物、岩美町のグルメ
	山陰海岸の植物、浦富海岸周辺の植物
	浦富海岸以外の岩美町のジオスポットとまとめ (中級編)
	城原海岸展望台・城原カーブミラー展望所
	荒砂神社周辺
	鴨ヶ磯駐車場展望台・鴨ヶ磯降り口展望台
	西脇海岸周辺

(京丹後市地域再生協議会、NPO法人たじま海の学校、岩美町観光協会の各チラシにより作成)

3.2. ジオガイドの利用状況

～いわみガイドクラブを事例に～

いわみガイドクラブは2001年より鳥取県岩美町をフィールドとして活動を開始した山陰海岸を代表するガイド団体の一つである。2009年からは岩美町観光協会を窓口としてガイド依頼を受けている。2011年12月時点でガイド22名が在籍しており、ジオパークの他にも、町内の自然や歴史、文化に関するガイドを行っている。先述のとおり、いわみガイドクラブではジオガイド養成講座(初級編、中級編)も開

催している。ここでは、2009年以降のいわみガイドクラブのガイド実績から、ジオガイドの利用状況について明らかにする。

いわみガイドクラブのガイドは有料であり、料金は時間と人数別に設定されている(表4)。基本となるのは、2時間で、ガイド一人につき20人までが3,000円、20人以上30人以下がガイド2人で6,000円、30人以上がガイド2-3人で9,000円となっている。2時間以上になる場合は、料金は要相談となっている。

2009年から2011年11月までのいわみガイドクラブにおけるガイド実績は総件数107件、総人数3,481人であった(表5)。その利用件数および利用者数は年々増加傾向にある。2009年は利用件数20件、利用者数585人であったのに対し、2010年は36件、1,037人、2011年は51件1,859人と増加しており、2009年から2011年にかけての増加率は利用件数で217.8%、利用者数で155.0%であった。1件当たりの平均利用者数は2009年が29.2人、2010年が28.8人であったのに対し、2011年度は11月までで32.5人と増加している。

利用者属性は、個人客よりも団体客の利用が中心であった。利用件数及び利用者数が最も多いのが企

表4 いわみガイドクラブのガイド基本料金(2011年度)

案内人数 (人)	ガイド人数 (人)	料金 (円)
1~20	1	3,000
20~30	2	6,000
30以上	2~3	9,000

注) 2時間の利用料金

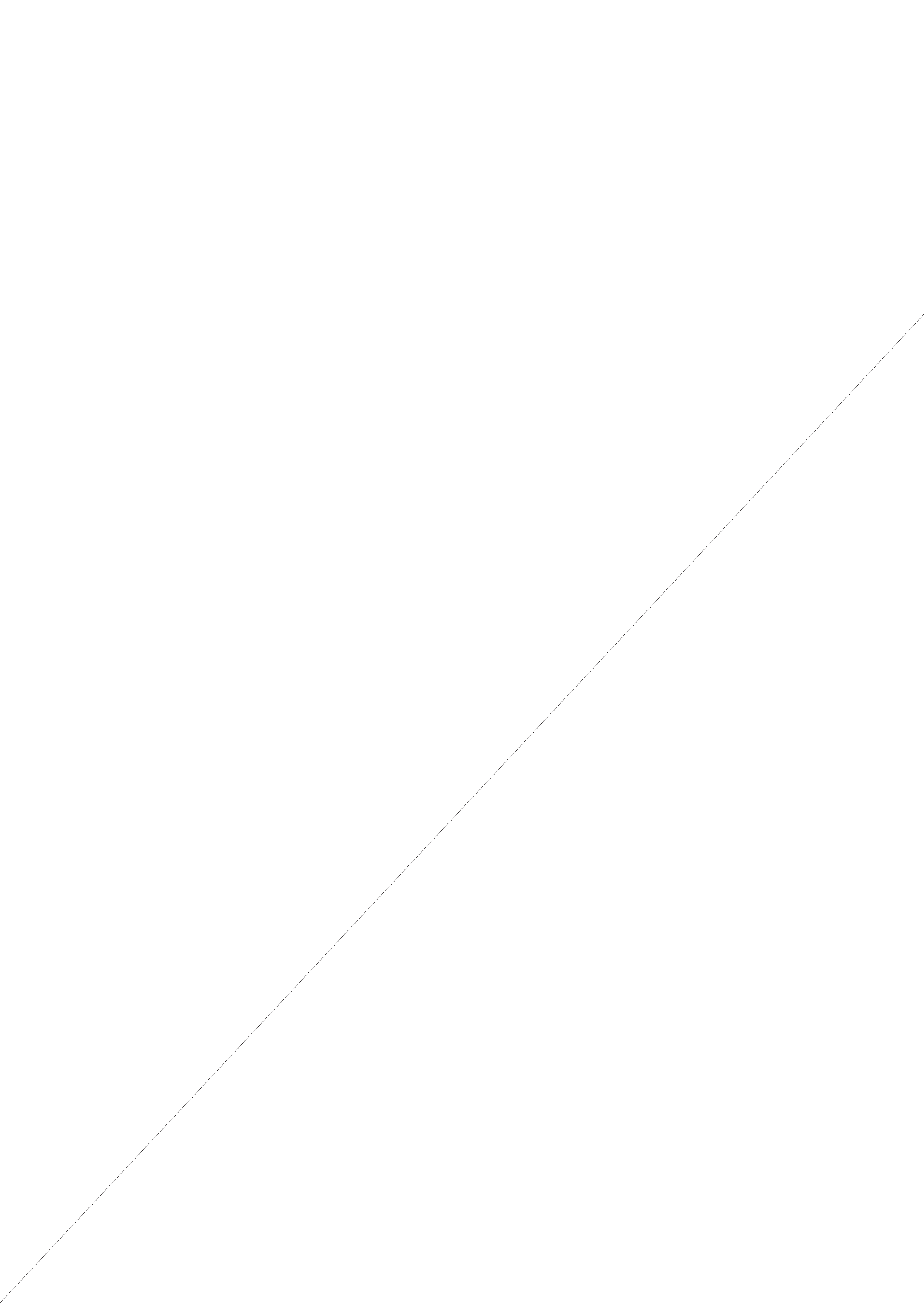
(岩美町観光協会提供資料により作成)

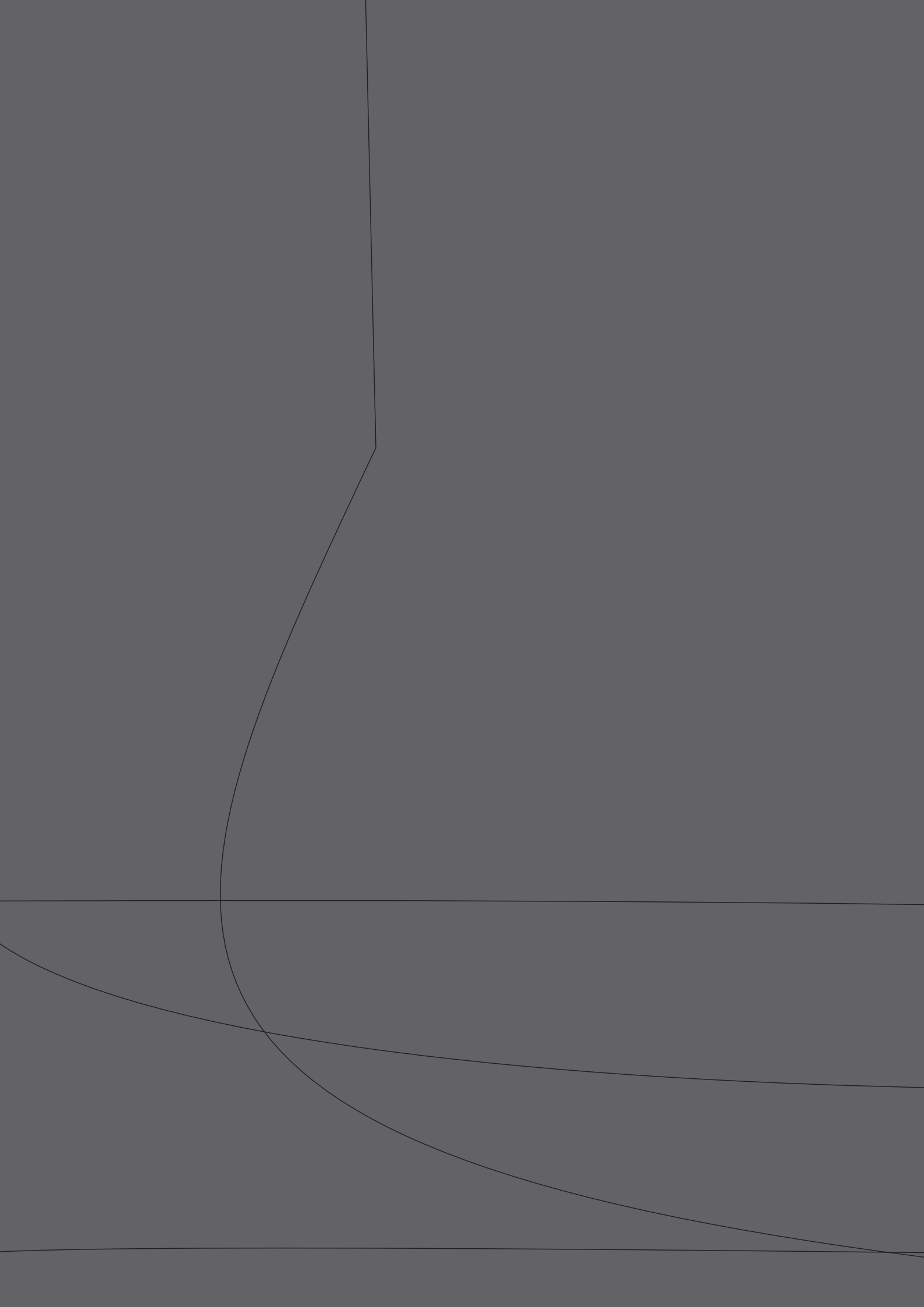
表5 いわみガイドクラブの利用件数及び利用者数の推移(2009-2011年11月)

	2009年		2010年		2011年		合計	
	人数(人)	件数(件)	人数(人)	件数(件)	人数(人)	件数(件)	人数(人)	件数(件)
企業・団体	349	13	324	14	569	19	1,242	46
イベント	150	2	140	1	369	4	659	7
公民館	83	3	185	6	186	8	454	17
学校関係	0	0	58	3	396	3	454	6
旅行代理店	0	0	225	7	206	8	431	15
講習会	0	0	100	2	90	3	190	5
個人	3	2	5	3	43	6	51	11
合計	585	20	1,037	36	1,859	51	3,481	107

(岩美町観光協会提供資料により作成)









センターの他に、自然体
環境部砂丘事務所
て、鳥取砂丘
地域団
上地

に開
なり、山
研修会と交流
で開かれた。こ
ジオパーク推進員によ
ーク～私たちガイドの役割
かれ、その後、参加団体の自己
で伝えたいことなどが議論された。
、山陰海岸ではジオパーク内および鳥
ジオガイドのネットワーク化が図られ、ガ
同士の地域や団体に対する相互理解を進めてい
る。鳥取県ジオガイド交流会の場合、香美町からの
参加や全域のガイド団体を対象とした講習会の開催
にも示されているように、鳥取県内のみならず、山
陰海岸全域へとその活動が拡大しており、今後も動
向が注目される。

表6 鳥取県ジオガイド交流会の活動（2011年）

開催日	内 容	場 所	参加者数 (人)
1 2月17日	・交流の目的について ・交流の内容について ・事務局について	鳥取砂丘（サンドパルとっとり）	18
2 3月22日	・自己紹介 ・現地案内 ・意見交換	湖山池（湖山池情報プラザ）	25
3 4月22日	・ジオパークセンターと鳥取砂丘に関する説明 と風紋発生風洞装置の実演 ・現地案内 ・意見交換	鳥取砂丘（鳥取砂丘ジオパーク センター、サンドパルとっとり）	17
4 6月10日	・現地案内 ・扇の里交流館で上地の弁当を食べながら自己 紹介	国府町：殿ダム展望 普含寺 雨滝 栃本廃寺 菅野湿原 上 地（昼食） 天空の里散策（成 器鉾山、夫婦淵）	34
5 9月15日	・現地案内 ・鳥取県ジオガイドの共有情報最新版を配布	鳥取城跡、仁風閣	
6 10月13日	・遊覧船乗船 ・岩美町立渚交流館の概要説明および座談会	浦富海岸 （山陰松島遊覧、岩美町立渚交 流館）	18
7 12月15日	・現地案内 ・ガイドスキルアップ講習 ・ガイド交流会の進め方 ・本交流会の組織化について	山陰海岸学習館、岩美町立渚交 流館	19
8 1月12日	・講演「地域活性化とジオパーク～私たちガイ ドの役割とは～」 ・自己紹介 ・「ジオパークで伝えたいこと」について	とりぎん文化ホール	約60

（鳥取県ジオガイド交流会資料により作成）

4.2. twitterを活用したネットワークの構築 ～ジオコミュニケーション推進グルー プを事例に～

ジオコミュニケーション推進グループは、2011年3月11日の東北地方太平洋岸地震とそれに伴い発生した大津波をきっかけに組織されたグループである。ここでは、防災や減災に関する意識啓発を目指し自然災害を正しく理解するためのチラシを作成している（写真1）。本チラシの特徴は、小学6年生が理解できるレベルの平易な文章で記述すること、A4裏表1枚で完結すること、全国のジオパークで活用できるように自由記述欄を設けたこと、日本ジオパークネットワークのホームページから閲覧やダウンロードを可能としたこと、英語版を作成したことの5点が挙げられ、ジオツアーや



写真1 海の文化館でのチラシの掲示
（2011年 新名撮影）

ジオパーク関連講座、地域や家庭での学習といった
場面での活用が期待される。

本活動は2011年3月11日に発生した東北地方太平

校正、英訳の4段階に分けられる。

「津波」作成時、チラシ内で用いるイラストは他の文献からも引用していたが、「地震」では全てオリジナルイラストを作成した。これは著作権の問題を解決するためであった。オリジナルイラストを作成することにより、これらを日本ジオパークネットワークで共有可能とし、ジオツアーや教育活用を容易にすることを意図している。

本活動は国内のジオパーク関係者でネットワークされたが、時間が経つにつれその議論自体、活発に行われなくなっている。というのも、本活動は有志が主体となって、ボランティアで行われているものであり、繁忙期となると活動を継続できないという現状がある。議論できない状態が続くと、本活動自体の継続に困難が生じるであろう。

5. おわりに

2010年に世界ジオパークネットワーク加盟認定を受けた山陰海岸では、課題とされていた内陸部の活用も進み、ジオパーク自体が来訪者/観光客の目的地となってきた。しかしながら、全域共通ののぼり旗、看板、ロゴマークの使用を除くと、実際の活動は地域的に限定されたものになっていた。というのも、山陰海岸は3府県6市町が広域連携で推進しているため、主要メディアが異なり、情報フローが行政界で地域的に限定されている。また、ジオガイドの養成や拠点施設も、特定エリアやジオサイトに特化するものが多く、行政界を超えた地域間連携の蓄積が待たれるところである。

一方で、2010年の世界ジオパークネットワーク加盟以降の動きをみると、該当地域内外を結ぶ人的ネットワークが徐々に構築され始め、広域化している。山陰海岸におけるジオガイド団体は、西側を中心に分布しており、全体の7割が有料でガイドを行っている。ジオガイド養成には認定制度等はなく、各市町および各団体が担っているため、品質保証やリスクマネジメントの点で課題が出てきており、今後、その克服が求められる。

山陰海岸を代表するガイド団体であるいわみガイ

ドクラブでは2009年以降、利用件数および利用者数が増加している。個人旅行者よりも鳥取県東部の団体利用が多く、曜日変動の影響を必ずしも受ける状況にはない。ガイドニーズは秋季、春季に多く、城原海岸や鴨ヶ磯を中心とした浦富海岸でのガイドが行われている。

ガイド養成およびガイド自体、基本的に特定ジオサイトや市町内で行われているため、他地域の情報を得ることが難しい状況にある。そこで始まったのが山陰海岸推進協議会主催のジオガイド交流会と鳥取に位置するガイド団体で組織された鳥取県ジオガイド交流会である。前者は、山陰海岸エリア内に位置するガイド団体が年に一度、開催された交流会に参加し、意見交換を行うものであった。これに対し、後者は2か月に1度の割合で、現地ガイドと意見交換、ガイドスキルアップ研修を行うものであった。香美町からの参加者もあり、鳥取県内に留まらない交流会へと発展している。また、鳥取県のように、定期的にジオガイド交流会を行うことにより、ガイド同士の相互理解が進むと考えられる。今後は、このジオガイド交流会を基に形成されたネットワークを活用したジオパーク推進活動が行われることが望まれる。

このような山陰海岸内でのネットワーク構築の他に、山陰海岸以外の地域とのネットワーク構築が見られる。それが、東日本太平洋岸地震と津波を受け、海の文化館のジオパーク推進員を中心に立ち上がったジオコミュニケーション推進グループである。このグループは、日本ジオパークネットワークを活用して、北海道から九州までのジオパーク関係者13名、を協議会員降あ海記参加者も内、犀クを活用

よび来訪者特性の解明については課題が残る。アンケート調査ではジオパークが観光の目的地となっている状況が見られたが、彼ら/彼女らの情報入手経路や実際の行動パターン、認知空間および行動空間の広がりについて解明することが必要であろう。

謝辞

本研究を進めるにあたり、いわみガイドクラブの油浅郁夫様、福原陽一郎様、岩美町観光協会の福本様、香美町海の文化館の今井裕子様、山陰海岸推進協議会の松原典孝様、鳥取市経済観光課の岡田実様、ジオコミュニケーション推進グループ、山陰海岸ジオパーク並びに日本ジオパークネットワーク関係者の皆様、鳥取市企画調整課、鳥取市若者会議Aグループの皆様にご多大なるご協力を賜りました。末筆ながら記して御礼申し上げます。

参考文献

- 山陰海岸推進協議会事務局 公式ホームページ,
<http://sanin-geo.jp/> (最終閲覧日: 2012年1月24日)
- 新名阿津子 2010. ジオパークに関する調査報告～山陰海岸の世界ジオパークネットワーク加盟に向けて～, TORCレポート33: 85-103.
- 新名阿津子 2011. 山陰海岸に関する活動報告, TORCレポート34: 191-199.
- 日本政府観光局 公式ホームページ, <http://www.jnto.go.jp/jpn/index.html> (最終閲覧日: 2012年1月24日)